

令和3年度 国立中央青少年交流の家

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 (take the first step)

令和3年7月22日(木)・23日(金)・24日(土) 0泊3日



○趣旨

地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一步を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。

○参加者

日本在住の高校生 24名

○事業の内容 11科目 22単位時間

(1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 藤原 章善



アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。

(2) 講話「地域づくりの実践」

HINAP初代代表 加藤 淳菜 氏

講師が高校生の時に行った実践活動についての講話を聴くことにより、地域への関心を高め、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めた。

(3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

チームFRF 勝亦 健太 氏

有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏

株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏

社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏

NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



(4) 講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習①では、グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、理解を深めた。

(5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

チームFRF 勝亦 健太 氏

有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏

株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏

社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏

NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

(6) 講義・演習③「地域課題の探究」

発表①〔グループ発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基本についても学んだ。

(7) 講義・演習④「行動計画の基礎」

発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。

発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。



(8) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 市川 大

実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や探究アワードなど今後の日程や手順について説明を受けた。



《事後アンケートより》

【『探究的な学び』に関する理解が深まった】 4段階評価で3以上 100%

- ・自分の頭で6W3Hを考えたことで、具体的な行動案を考えることができた。
- ・どのように考えるかなどの手順を教えてもらい、よく理解できた。
- ・SDGsについて活動するヒントをもらった。
- ・周りの人のやる気に刺激を受けて、理解も深まった。
- ・自ら考え行動する力がついた。
- ・主体的に探究することの喜びを知ることができた。

【「ぜひまた『探究』してみたい」と思えた】 4段階評価で3以上 100%

- ・今回とても楽しかった。まだまだ知らないことがたくさんあるので、探究したい。
- ・授業でSDGsを学んでいるので活かしたい。
- ・自分で問題を見つけて解決策を出す楽しさを感じた。
- ・アワードにも出たい。活動を続けるのは大変だけれども、頑張りたい。

《成果と課題》

- 昨年はフィールドワークのコースが3コースだったが、今年は4コース設けることができたことで、参加者にとって地域の課題をより多方面から考える機会となった。
- グループワークのファシリテーター役を、法人ボランティアや地域の社会人に務めてもらったことで、参加者にとっては年齢の近いファシリテーターから刺激を受ける機会となり、またファシリテーターにとってはファシリテーションスキルを磨いたり、より良い関わり方を考えたりする機会にできた。
- ともに学び合った参加者同士、そして地域づくりの実践家との間に繋がりを作ることができ、この後の活動に向けて協力し合える良い関係を築くことができた。
- 昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、宿泊なしの0泊3日で開催した。来年度は、宿泊を前提に企画し直し、泊が伴うことの利点を効果的に活かせるようプログラムを編成したい。